

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 19 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530311

研究課題名（和文） 19世紀前半プロイセン農業改革のミクロ歴史分析

研究課題名（英文） Micro historical Analysis of the Agrarian Reforms in Prussia in the First Half of the 19th Century

研究代表者

飯田 恭 (IIDA TAKASHI)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：20282551

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：ドイツ、プロイセン、農業改革、森林

1. 研究計画の概要

本研究では、19世紀前半のプロイセン農業改革について、ブランデンブルク州ポツダム県の一行政区アムト・アルト・ルピン Amt Alt Ruppinを事例とし、「ミクロ歴史分析」を行う。同地の農業改革に関わる史料を集中的・体系的に分析することで、農業改革にともなう土地所有・利用関係の変化および関係当事者たちのそれへの対応を、従来の「マクロ」の研究よりも多面的かつ詳細に描写し、プロイセン農村の近代化のありようを再検討したい。また、かつて日本の農村近代化の経路はプロイセン農村のそれ（プロシア型）と同系列に属すると捉えられがちであったが、この理解の可否を、上記の実証研究を踏まえて再検討したい。

2. 研究の進捗状況

19世紀前半プロイセン農業改革における領主＝農民関係の解消過程において、農民の領主に対する建築・修繕用木材の請求権（領主の農民に対する木材支給義務）の償却が決定的に重要であったという、従来ほとんど知られていなかった事実を、アムト・アルト・ルピンの事例研究を通じて発見しえた。その成果を、Bäuerliches Beharren auf der „Holzberechtigung“と題する論文にまとめ、ドイツ語の学術誌に発表した。

また、この発見をもとに、領主の農民に対する木材支給が、1650年から1850年までのより長期の過程において、またクールマルクの御料地全体においてどのように展開したのかを考察し、'Timber beneficences' from the lords' forests という英文論文にまとめ、農

村史国際学会で報告した。この論文では、ドイツ・東エルベ地方の封建領主（グーツヘル）が、農民の賦役労働を搾取する大土地所有者であったばかりでなく、農民に建築・修繕用木材を供与する大森林所有者でもあったという新しい見方を（少なくとも御料地に関して）提起するとともに、とりわけ領主による木材の無償供与が農民による木材資源の浪費に結果したことを指摘した。なおこの論文は、加筆修正の上、英文の国際的な学術誌に投稿した。

3. 現在までの達成度

当初の計画通りに進行している。
（理由）1年目は、史料収集をはじめとする研究準備に時間がかかり成果が出なかったが、2年目以降、研究成果を、とりわけ国際的な学術誌・学会に向けてコンスタントに発表できているから。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究を通じて、木材・森林問題を本研究の中心に位置づけるという基本視角が定まった。この基本視角を堅持しながら、いまだ検討しえていない農業改革の諸局面の史料分析を推進して個別論文を蓄積し、最終的にはプロイセン農業改革史のモノグラフ（単著）に結実させたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

Takashi Iida: Bäuerliches Beharren auf der „Holzberechtigung“: Die Auseinander-

setzungen zwischen Gutsherrn und Bauern im brandenburgischen Amt Alt-Ruppin während der ersten Hälfte des 19. Jahrhunderts, *Jahrbuch für die Geschichte Mittel- und Ostdeutschlands* 55 (2009): 121-165. 査読無

〔学会発表〕(計2件)

Takashi Iida: 'Timber beneficences' from the lords' forests: new light on demesne lordship (Gutsherrschaft) in Brandenburg-Prussia, 1700–1850; Rural History 2010 (an international conference dedicated to rural economies and societies); University of Sussex, UK; 14 September 2010.

飯田恭:農民による「木材権」保持闘争 19世紀前半プロイセンにおける領主・農民関係清算交渉の事例分析、2009年度政治経済学・経済史学会秋季学術大会自由論題報告、2009年10月24日、岡山大学